

**The
Japan
Interior
Designers'
Association**

JID

no. 68

1975. Feb. 1

昭和 50 年 2 月 1 日発行

目 次

主集 アンケート・あなたからの提案	
新しい時代に新しい英知を.....	1
アンケートの内容.....	2
かるてっと.....	12
賛助会員紹介・編集後記.....	13

新しい時代に

新しい英知を

——アンケート

“あなたからの提案”をみる——

新年を迎え、“激動”の言葉がふさわしい今日この頃、会員の皆様におかれましては益々御健闘のことと推察いたします。

いわゆる、高度成長から低成長時代への転換は、建設業界からインテリアデザインの分野にあっても多大の影響をもたらしている。

このような時にあたって、わが協会の社会的な位置づけ、ひいてはインテリアデザイナーの真価を事問うに絶好の機会ともいえましょう。

こうした時代の今日的な背景をさぐり、よりよき明日のための協会の姿を“あなたからの提案”として多岐にわたる問題を提示いたしました。

この中から、新しい時代の流れをキャッチするのはあなた一人一人です。

そして、より大いなる意義を付加してゆくのもあなた一人一人にかかっています。

もはや、明日の時代への目標のみをたてるのではなく、行動し実践する協会として変身を迫られているといえよう。(アンケートの内容・依頼者以下の通り。)

アンケートの内容

1. あなたが参加するデザイン・サーベイ

今日の街角や事問われているデザインの在り方など、見たり感じたりする生きているデザインに対してひとこと。具体的なもの、抽象的なものを問わず、今日から明日への提言を期待する。

2. インテリア教育について

とかく、インテリアデザインは言葉の氾濫といわれる。実質がともなわないのではないかと。とくに、工業高校にてのインテリア科の発足など、インテリア教育を考えてみよう、多くの提言を期待する。

3. インテリアデザイナーの在り方

今日の社会におけるインテリアデザイナーの役割や位置づけはどうか。とくに、デザイナーの再教育や他領域とのデザイナーとの関連など、幅広く考察してみたいもの。

4. インテリアデザイナーの職能

いわゆる、インテリアデザイン業務の中軸には、どのように具体的な技能や技術が必要なのか。インテリア家具、照明、テキスタイルなど多分野とのかかわり合いを、どのように把握してゆくべきなのか。

5. 協会これからをさぐる

明日のための協会、これはどんな

姿を見出してゆくのか。そのための問題のありかや、各様の提言や提案を期待したいもの。

これら上記5のテーマの内、1のテーマについては、原稿依頼者全員の共通テーマとして御意見を求めた。その他のテーマについては、下記の各会員に発送依頼し、原稿到着したもののみ次ページ以下に掲載いたしました。

多くの示唆に富んだ提言、御意見など、皆さんの御参考にしていただきたいと思います。(掲載順は五十音順、以下の氏名掲載については、敬称略・順不同)

2. 島崎信, 真水公雅, 本田安治, 吉永淳, 堀内啓三, 南原七郎, 泉修二, 藤原康弘, 大山繁三郎, 新庄晃
 3. 岡村実, 佐藤守男, 矢田秀治, 新居猛, 秋山修治, 富田卓司, 長大作, 福岡喜久雄, 剣持仁, 木村戦太郎
 4. 松本哲夫, 白川雄渾, 西沢圭三, 三輪正弘, 中村圭介, 川崎浩, 狩野雄一, 小畑次郎, 鈴木慶一, 内堀繁生
 5. 松本哲雄, 本田安治, 森谷延周, 加藤昂子, 秋山修治, 遠藤誠之, 石田忠昭, 多田美波, 林寅正
- (尾上記)

内堀 繁生

1●あなたが参加するデザイナー
ペイ 今日のデザインの内実、
それは大変むづかしい問題だと思う。

しかし今こうあった方が好ましいと
云う2、3の例を考えて見ると、私に
は fumam であり coordinate され、
しかも省エネルギー的であることが好
ましいと云うたいへん今日の3つの
単話が想いおこされるのである。

fumam: 人の側から見ると(エンジョ
イする側と云ってもよい)デザイン
はいつも個人的で、情緒的に或いは
理知的に受けとめられる、従ってデ
ザインは個人個人のフィリングや環
境に密着したものが好ましいことは
云うまでもない。そしてそれはあく
までも社会環境的な時代的なNOW
なセンスで貫かれることが、理知的
な現代の生活環境にマッチングされ
ることだと思う。

coordinate: このような現代の生活環
境は、物質的には、高度で複雑なイン
ダストリーによって支えられてい
ることは云うまでもない、産業のコ
ントロールと環境的な統合化の前提
をいつもデザイナーは心にとめてお
かないと、高度産業社会の担手とし
て、一方では望ましい生活環境の増
進と近代的生活への進展に貢献しな
がら、反面では、人間社会を混乱と
破壊に加担する当事者になってしま
うと云っても過言ではない。

省エネルギー: 又建築やインテリア及
びFDの世界では、あくまでも省エ
ネルギー的な計画をすることが望ま
しい、大量生産に於る椅子張り布の
強度やカッティングの取りつごう、
住宅に於る暖冷房の経済性など、す
でに我々はこの考えに通ずる作業を
やって来ているが、建物の構造軀
体、設備システム、内装デザインな
どのビルディング・コスト及び使用
していく際のメンテナンスやエクス

ペンスが安いと云う両側面からのス
ターディが今後一層必要であろうと思
われる。

遠藤 誠之

1●あなたが参加するデザイナー
ペイ デザイン・サーベイという用語
には、我々がインテリア・デザインと
いう用語を口にすると同程度に重い厳
しさを感ずると思うので、このテーマ
設定の目的とするところが、よく理解
できないのです。個人的にはかなりな
エネルギーを費やしてサーベイしたい
ことはありますが、それをこゝに提言
しても意味のないことのように思われ
ます。

ただ、これは「5・協会これからを
さぐる一協会のなすべきこと」に述べ
た提言につながるのですが、協会とい
う公的機関が、そのメリットを活用し
て、個人ではなし得ないサーベイのテ
ーマはあるように思われます。例え
ば、全国的規模での、個人住宅のイン
テリアの実態調査などは、デザイン・
サーベイの視点から十分に公的な意味
をもつものになりうると考えるので
すが……。

もし会員が参加するデザイン・サー
ベイであるならば、サーベイするテ
ーマを明確に置き、そのテーマに対して
会員が参加し、共同して研究を重ね、
公的発言となりうるような深さと重み
のある結果を引き出したいと思いま
す。

5●協会これからをさぐる一協会の
なすべきこと 世界的な政治的、経済
的力学のモメントによって急ブレーキ
をかけさせられた小船“日本丸”の乗
員は、そのバランスを失い、思いきり
足をふんばって体をさゝえないと圧死
の状態に追いこまれかねない厳しい現
状といえます。このような状態では、
一人がバランスをくずして倒れかゝる
と連鎖反応を起して大事になる、いわ

ゆる「将棋倒し」の現象が起ることに
なりましょう。このような状況では各
人が自身の力でしっかりと体をさゝえ
なければなりません。体をさゝえなが
な、死からのがれよりよく生きられる
術を考えなければなりません。人はこ
れを「よき反省の時機」といいます。

さて、このよき反省の時機をむかえ
て、協会のよりよく生きる術となりま
すがそれは、“プロの集団としての社
会的発言の強化”にあるのではないで
しょうか。この発言は個人のものでは
なく、あくまで法人として権威ある公
的なものでなくてはならないでし
ょう。個人の力ではなし得ない情報の蒐
集・公表などは具体的作業ではないで
しょうか。協会が全国的組織であるメ
リットを生かすことでもあります。プ
ロの集団として外部に責任ある発言を
するには、協会員の衆知を集めた作業
が必要となり、この作業への参加が自
ずと協会の活性化を促すのではないか
と思います。また協会の権威ある発言
は会員の自立へのよき助力となること
は疑いのないことでしょう。

具体的な作業進行の組織は、協会の
現組織でもそれぞれのパートの連ケイ
プレイで可能ではないかと思われま
す。

尾上 孝一

2●インテリア教育について 今日
のインテリア教育全般にわたっての課
題を考察してみる。

(1) インテリアの言葉の普及は、単
にインテリアへの関心をもつ人々
拡大した意味は大きい。

反面、インテリアの語感には、甘
ったるいムードの様相を呈し、や
や虚像的な面をもっている。

では、インテリアとは実体とし
て何を踏まえてゆくべきかが、い
ざんとしてナゾである、と。

(2) 抽象的なデザイン理論から実体

のある実務的な理論武装こそ、必要ではないのか。

そのための教育こそ、真のインテリアデザイナーの底辺を拡大することに通じよう。

3●インテリアデザイナーの在り方

今日こそ、インテリアデザイナーそのものの体質が問われた時代はあるまいと思われる。いくつかの問題点をひもってみよう。

(1) いわゆる、再教育いなし生涯教育のすすめ。

それは、各種の工芸・技能とくに彫刻・絵画のように、ひとつの技術や技能に精通し、これを日夜修練し磨きをかけるのとは異なっていること。

いわゆる、デザインに関連する内容は、日進月歩の技術・技能に関して常に相当の理解をしてゆかなければならない。単なるまやかしの技術・知識であってはならないこと。

(2) いわゆる、虚像から実のあるデザイナー像への精進を。

従来、デザイナーは、ともすれば時代の潮流に便乗し得た幸運児でもあった。しかるに、今や、本物の時代または実を求められている時代であるともいわれています。

4●インテリアデザイナーの職能

デザイナーの職能そして、その業務の在り方は、単なる目標の設定ではなくして、何を、どんな風に行動してゆかにかかっている。

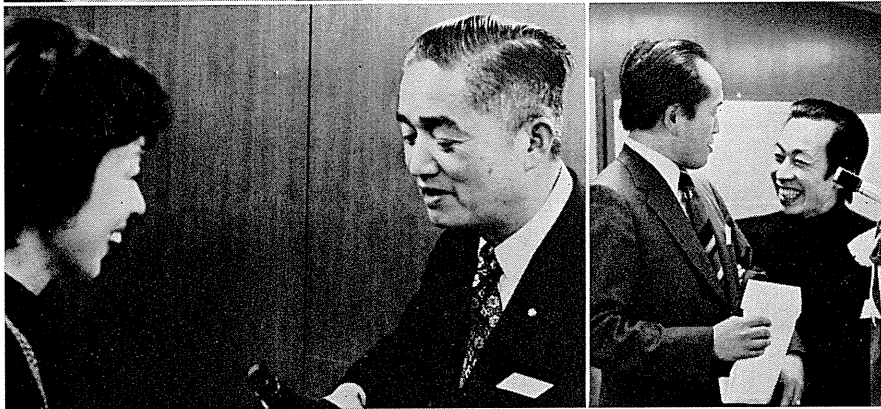
- (1) インテリアデザイナーの最少限行使すべき業務内容の整備・指導
- (2) デザイン関連業務にわたる標準的な業務(実務)指導項目の整備
- (3) デザイン関連業務にわたる標準仕様書の整備と作成

5●協会これからをさぐる 明日の

協会の在り方ということは、同時に、



アンケート・あなたからの提案



インテリアデザイン全般にわたる時代との対応を配慮してゆかねばならない。いくつかを整理してみる。

(1) 単なる目標の設定から行動の実施へ。

そのための少人数による実行委員会の設置と権限の委譲。

(2) 外部団体との連けいを密にすることにより、会員の意識の向上を期待してゆく。

(3) 会員相互の意見交換や話し合いふれ合いを密にすること。

川上 信二

1●あなたが参加するデザイナーズライフ 生活とデザインの結びつきが最も重要であり、デザインの在り方はこの一つにつきると思う。

我々国民がデザインによって、よりよい生活がいとなまれることを自愛し、実せんし、そうある様な行政が行なわれなければならない。生活とデザインとは何か、デザインの実用的効用であり、社会的効果であり、美的効用である。即ち、デザインによって使い易く、デザインによって、生活し易く、デザインによって眺めて美しい心を得ること、これが生活とデザインの融合であり、私達はこのために力をつくしたい。

2●インテリア教育 工高教育に於いては、インテリアデザインは難かしいと思う。

むしろ、エレメントデザインに集中し、技術のマスターと用の美を体験することだと思う。

12才から18才までの、最も技術を修得し得る時期を、あたら雲をつかむ様なインテリアデザインに無駄な労力を費すことはナンセンスと言わなければならない。木工、陶芸、金工、塗装、染織、これらのどれか1つの工芸技術と、道具の美しさを、この時期に修得し、しかるのち、生活に対する教

養を得て、インテリアデザインが発想され、創造されるのではないだろうか。これなくして何も名案はない。

3●インテリアデザイナーの在り方

インテリアデザイナーは、何か1つの工芸技術をマスターして後、総合的な生活空間の創造に入るデザイナーだと思ふ。創造的デザインの本質はそう言うものだと思う。

社会に於ける位置づけなど自づから物と生活についての連なりに独自の世界をもち、その発想するものが夫々に、よりよい生活に対するイメージを創り上げ、一般使用者に夫々の個性に従って、独自性をうたえることが出来る職業、それがインテリアデザイナーであろう。

当然、アーキテクト、クラフトマン、エンジニア、デコレーターとは協同しなければならず、社会に対しては常によりよい生活を示すリーダーでなければならないだろう。

4●インテリアデザイナーの職能

インテリアデザイナーの職能としては勿論、建築技術、理論、工芸技術、美学、そして最も大切な工芸精神の把握は勿論のことであるが、文化人類学、社会学、心理学、そして科学技術、未来学と、全てに渉る知識は在って不必要なことは全くない。それはそのデザイナーの体質は資質によって、夫々自由であろう。

しかし実際の仕事にあたっては、インテリアデザイナー、とエンジニア・アーキテクトとの、協同作業が不可欠のものになって来る。私の考えでは、何か一つ、クラフトマンとしての技術の修得が絶対条件であるから、それによって、他のエレメントに対する理解度は、必然的に非常に高度なものになる筈である。

5●協会これからをさぐる 協会としては、夫々に会員相互が何を考えているかを、明らかにする運動をする。

そして、職種を問う、問わずに限らず、自由に、意を同じくする者同志が意見を交し、夫々個人が成長し、出来れば、そのグループが、研究の成果によって社会的発言が出来、それが増々強くなり、社会のリーダーシップがとれることを理想としなければならないだろう。会員の会費に対するメリットが、どうのこうと言っている間は、その様な事は到底望めないだろうと言うことは先ず頭に置いておかなければならないと思う。

川崎 浩

4●インテリアデザイナーの職能

デザイナーの資質として、よく言われるのに次の4点がある。

(1)管理的な要素 (調査分析力・組織統率力・経理的能力・進捗力)

(2)造形力

(3)アイデアの発想力

(4)材料・工法等の技術的な知識

以上すべてを兼ね備えた人はなかなか得がたいものである。特に大組織の中ではむしろ平均的な優等生より、何か一つか二つ、とび抜けてよいものを持っている人が多い程、組織としての強さとなっているようである。

職能としては技術か技能の具体的なものは。

(1)材料についての知識。特にそれらの物性的な特徴を熟知していること、定量的に把握できる能力が望ましい。

(2)工法・加工技術の知識と修得。材料夫々に適した加工法、組み合わせ複合させる場合の手法(おさまり)等、知識として知っていることは勿論であるが、その内の一つか二つ、木工であるとか、金属溶接であるとか、実際に手が動かせると、申し分ない。

(3)早く図面を書くこと。早くきれいに図面化できる能力、考えをまとめるといふ頭脳作業を含めて、運筆のスピードタッチ、紙面としてのまとまりま

で、情報伝達の手段としての図面を作る技術である。

デザイナーには哲学と、科学が欠けるといわれる。私は先づ科学をと思ふ。思想は自然と滲みでてくるものである。

(4)関連する法知識。設計する上で必要な法基準、施工管理の上での規制、商品販売にもある消費者保護のための法律である。商業施設のインテリアは錯綜する法の網の中に如何に性格づけをするかにつきるともいえる。

全てをマスターすることは無理としても、少なくとも一応は知っておくこと。必要な時に対応できる態勢を固めておくことが大切である。

富田 卓司

3●インテリアデザイナーの在り方

京都の町並には至るところに雅やかな・貴やかな町名や通り名の多いのに感心させられる。和菓子の老舗「亀屋良永」も優雅な通りの一つ「御池通り」の角に、創業天保三年と云うと恐らく140年間じっと商品の味と形と色、店の内外装に、澄み切った気のつかい方をうけ続けて、現在の格調にまで創り上げたものと思われる。

パッケージデザイナーの岡秀行氏は自著「日本の伝統パッケージ」に亀屋良永の懐中しるこ「夕月」を「包装紙を開くとそのまま銘々皿として使える、淡白な微妙な色のコンビネーション・レイアウトの見事さ、これが京都風というもの」と記されている。その「夕月」や、持つだけでくずれそうなるうぶな美しさにまとめた「御池煎餅」を創り上げた手法で、淡白な微妙な色のコンビネーション・レイアウトの見事な「商」の場を、天保三年からという永い歳月をかけてつくり、毎日の雑巾掛けで杉面皮・磨丸太の肌は、すがすがしい色合に枯れている。そのようなナチュラルな素材で囲まれたひかえ

目なショーウィンドに「夕月」ただ一つ、利久があしらった朝顔の一輪の如くじっと置いている。

フロレンスで見かけたグッチのショーウィンドにハンドバックただ一つ飾っていたことを思い出す。ほんとにいいものはそのように見て買いたくなるものかも知れない。

貧困な資源国の、身の程を弁えた「人の心と物の世界につながる総合的な計画行為」が、同じ京都を非日常的に通り過ぎた世界デザイン会議が開催される以前からも、それが日常生活行為に組み込まれ、今も、これからも御池通りのたたずまいの中で、目立たずじっと「商」を続けている。杉の素材をたくみに使ったショーケース・ショーウィンド、店の砂壁に吉井勇や武者小路さんの筆蹟があったように思う。「京都風」というものかも知れない、が亀屋良永に見る微妙な、格調高い総合的な計画性がつくり出した空間は、見るだけでも気の安まる思いがする。

海外の店舗・住宅を血なまこになって探しまわるのも、植民地的戦後四半世紀の名ごりとは云え、一人のパッケージデザイナーが日本全国をかけめぐり、豪華本「日本の伝統パッケージ」をまとめ上げた如く、このへんで誰れか図版「日本の伝統インテリア」をまとめ上げ、われわれ日本の日常的インテリアデザイナーが鮮烈であって多分に土俗的な共通の視覚言語を探る資料として提供してもらえないものかと思う。協会が全国地域の協会員を動員し、人の心にふれ合う大衆生活の遺産を集め、協会出版事業の一つに考えられないこともなさそうであるがどうだろうか。

亀屋良永の「夕月」や「御池煎餅」が置かれ得べきところを離れ、ときに超大型ショースペースなどの心ないショーケースにつめ込まれ、山積されると全く生彩がなくなる。同じことが最

近目立って立派に、華麗に、ヨーロッパの街並に似合いそうな洋菓子のパッケージと中味に感心させられる。残念なことに心ないショーケースとディスプレイでは成果があがらない。インテリア側に置きかえて見ると、盛んな輸入家具やイミテーション家具も、それがグッドコーディネイトに至らない心ないベースでは、息づいていないようである。

四半世紀間の産業優先・企業サイドの経済機構に没入し、急激な発展に同調して来たわれわれのデザインワークの状況が、結果的に前述の心ないショーケースやディスプレイであったのかも知れない。あったのかも知れないなど無責任な表現は、デザイナーすべてが総論として責を受けると云うことである。まず責を受けることが、会報のテーマに示されたインテリアデザイナーの在り方＝社会における位置づけのはじまりとも、再教育の原点とも感じている。

亀屋良永の商品にたとえられる如き伝統的な和家具と輸入家具の狭間に立って、個人的・協調的にことを運んで来た「本音」は正直なところ続けなければならぬとしても、協会と云う場を土俵にして、デザイナー自らの「すまい」環境と、これだけは是非共ほしい自らの「すまい」装置をじっくり考えて見る意識を起点として、具体的な行動に発展させる大衆集団活動＝協会事業活動がはじまれば、インテリアデザイナーの「立前」の立証になると思うがどうだろうか。いま生活し続ける現代の生活者に、協会員の能力で協力する活動が、協会と協会員の社会的評価・位置づけになると考えたい。

まずは共通の視覚言語の原点を洗い出す作業と、明確なテーマをもったアンデパンダン展を、自主運営で実現する方向に、協会の姿勢を示せることが出来るものだろうか。

中村 圭介

1 ●あなたが参加するデザインサーベイ 人間形成の場である住宅が貧しくては、健全なインテリアが発達しません。

事実、商業施設のインテリアが先行するようでは困るのですが、残念ながらそのような現状です。

家具屋にある家具は陳腐な物ばかり、これは接客本位に考える日本人の住生活の態度に問題があるのでしょうか、我々専門家の、生活環境の改善への努力の不足もあります。また、国の貴重な税金を使い京都の国際会議場のようなこけおどしで、使いにくい建物ができても困ります。軽佻浮薄な商業建築と同根の造型主義から生まれているのではないのでしょうか？

4 ●インテリアデザイナーの職能

一口にインテリアデザイナーといっても、インテリア全般にかかわる人とプロダクトを主にする人では職域が違います。

この辺の名称を分離し立場を明確にして行く必要があるように思います。

その上で、本来のインテリアデザインを指向するなら、近年ビル火災等の災害が社会問題になっている以上、防災安全に完全を期せるよう、建築士相当の技術的知識を持つことが、まず必要です。

そして人間生活に対する独自の主張を持ち、豊かな創造力を駆使して、新しい日本人の住空間を創造して行く集団をつくるのが大切です。協会の役割もその辺にあるではないでしょうか。

林 寅正

1 ●あなたが参加するデザインサーベイ 今私達の周辺は戦後30年を経て、豊富なものにとりかこまれた環境と変ってきている。人々は夫々の自由

な色や形の服装をし、市場には人工の物がありとあらゆる色彩と材料と形をもって自己顕示に懸命になり“売らんかな”をむき出しとし、又街は何のつながりもない建築が大小を問わず勝手気儘な色と形でつながり、我々にせまってくるのである。

そこには一昔前には予想も出来なかった豊富な色がある。しかし此の豊富な色彩を我々日本人は今どう使っているだろうか、かつては自然の材料と色と形の中にたくまざる調和があった。一説によれば過去の日本人は中国の豪華絢爛たる極彩色の世界を美として受け入れていたものが、中世ワビ・サビの世界となりその後つい最近まで此の無の世界、自然の世界の美を美として来た由である。現在の日本人の約半数は此のワビ・サビの世界の美を美として育まれてきたのではなからうか。

今その人達は街や市場や家庭に入りこんできた極彩色の世界を何と見ているのだろうか。何時とはなしに、こうしたものをやむ得ず受け入れているのか、それとも共鳴しているのかだろうか。失われつつあるワビ・サビの世界で代表された日本の美を殆んど見ることなく育って来た人々が持つ極彩色の、表の美意識と過去の日本人が持っていた無の世界、裏の美意識との間に或る種の混乱と相剋があり、之が今の環境の色の面で大きな混乱を与えているのではないだろうか。今一度色を考えたものである。

2●インテリア教育について 造形短大のプロダクトデザイン科が名称を50年4月から環境デザイン科と改称することに内定した。之は以前から物づくりとしての中で、単に機器や生活道具といったもののみでなく、住居室内設計や空間設計等をも含めて進めてきているからである。それはどんな小さな道具も他の物、人間との関連に於て人間をとりまき、空間の一部をつく

り、シェルターととけこみ、更に建築、公園、都市となり自然の空間と一つになることへの認識からである。

しかし一般には此の大きな関連を見ずに物、ショーウィンド、室のかざりつけといった事に熱中してゆくのがインテリアデザイン科学生の大部分と聞く。

こうした事もインテリアの一部ではあるが、それ以前に人間環境を構成するものの総合、そして空間を把握する事への訓練こそ必要ではないだろうか。此の空間を把握する為には一度人工物からきっぱりと離れて見ることである。森を歩いて木々の下をくぐり、山野を歩いて広い空をあおぎ、或は地にもぐって鐘乳洞の奥深くさぐり、或は四方一木もない砂漠の中に夜一人立たせてみることである。此の自然のもつ無限の空間のひろがり、変化を身に受けとめ、皮膚感覚としてつかまえさせる事である。そこには目の小さな装飾感覚是一片もなく、空間の基本が我々をまねている。そこには砂漠の夜空に輝く星を一ヶケ手でもって光のモザイクの様に埋めこんで全力をつつむ環境を構成する事への第一歩がある。此の空間把握を何としても進めるべきである。

3●インテリアデザイナーの在り方

4●インテリアデザイナーの職能 インテリアデザイナーとはと聞く時その答としてよく家具のデザイナーである。或は壁紙、ジュエタンを選択出来る人、或は建築の内部装飾をする人といった声を聞き、全く間違いではないまでも之だけではない筈である。

インテリアデザイナーが行うことは人間の環境をつくる事であり、その為に必要とする事は可能ならすべてを把握してゆくべきではないだろうか。

オーナメントから始まって家具、道具空間とそれを構成する材料、光、音といった所にまで領域を広げ、それ等

をコントロール出来る力がほしいものである。それは単なる物理的な構造技術ではなく、人間の内面心理にまで深く訴えかけてくるものの把握とその表現技術の把握を意味する。ここには従来いわれて来たようなインダストリアルデザイナー、クラフトデザイナー、アーキテクトと云った単体の分離されたものではなく、人間環境をとりまく物と心理の総合表現による環境構成の出来る人間を必要としてくる。之がインテリアデザイナーの職能であり、又その在り方ではないだろうか。一般にアーキテクトは物から離れ、構造物にかたよっている。インダストリアルデザイナーは物にかたよってその場を構成する事がむづかしい。両者を総合する空間をつくるものがインテリアデザイナーではないだろうか。

5●協会これからをさぐる 我々の周辺にはいろいろのタイトルをつけた協会が無数に存在している。事デザインに関するものだけでも日本中ではいくつあるだろうか。しかし此の協会と名づけられて極めて活潑に、且つ長期に運営されているものは極めて少いようである。

協会とは字典によれば「会員の協同一致で設立維持をする会」とある。ところが此の協力して設立はしても維持をすることが仲々むづかしいようで、殊にそれが長期、そして会員数が多く且つ広くなればなる程むづかしい様である。之は丁度クラブと同じではないだろうか。共に喜び、共に悲しむことの出来る二人が三人となり、四人となってクラブをつくり、密接なコミュニケーションのもとで一つの事を進める様になる。所が此のコミュニケーションがうまくゆかなくなると派が出来る。そして夫々の名前の下か上に何々派といったタイトルが、丁度相撲の番付の部室名のようにつく。更に意見が違い物理的な距離がへだたってくると

此のコミュニケーションが益々うまくゆかなくなり、次第に分裂の憂き目を見るに至るは衆知の事実である。之を分裂させないものが会員自身の積極的な協力への意志と努力に他ならないが、此の意慾を起させるものは一にも二にもコミュニケーション、絶えまない話し合い以外にはないのである。

それは本部からの月一回の印刷物による一方通行的なコミュニケーションだけでは不足である。会員相互の網の目の様に入りくんだコミュニケーションが協力への意慾をもちたてる事が出来るのではないだろうか。そのためには会員のすべてが常に何らかの役割を少くも一つは受持つことであり、その実行の為に有形無形の協力をする事である。そこにポジティブとしての協会のメリットが生ずるのである。勿論そこには物理的なネガティブとも云える奉仕の為に時間の費い、その他があるが、それこそポジに転換出来るメリットである。

此の会員相互のコミュニケーション、そして全ての会員が何らかの役割を受け持つことが忘れられる事のないようにしたいものである。

藤原 庸弘

私の日頃考えている事を発表できる機会を与えていただいた事を心から嬉しく思います。決められた字数で答えると①について本音を云うと日本インテリアデザイナー協会を追放される②について答えると大学にいらなくなるので折角ですがこれだけしか申し上げられません。

本田 安治

2●インテリア教育について 私は、デザイン教育の過程に於いて造型感覚、造型能力の体得重視を提言したい。体得とは単に造型の基礎や、表現技術の専門的実習時間の増加による学

習経験を重視すると云う意味ではなく、此処では、造型が、単なる方法論や表現技術の問題を超えて、一体何を自分のものとして選ぶかの裏付けや、解決の問題が重視されなければならない。

最近、デザイン教育を受けた人等を迎え入れ、使う立場から観察すると、造型に対して自己感覚の主張が強く、又その表現テクニックに於いて可成りの力量を発揮する人が多いが、残念ながら、他人の造型に対して深い観察や思いやりが少いのが目立つ。従って古典や伝統に対しても表面的な理論以外には全く無縁な状況であるし、先輩や同輩間での真のコミュニケーションを著しく疎外して居る面が多いのは悲しむべき事である。

自らの心に強く描くべき理想のイメージを見付け出し、それに対する表現技術を含めた造型方法を自ら開拓発見する苦しみ、又それ等発見の喜びと感激を他と共に分かち合う事を出来るだけ早い時期に体得させる事が肝要である。そして、教育者はその苦しみの克服と喜びを分かち合う事の為に全力をかけるべきである。

教育界に籍を置かぬ身で、昨今の事情を詳かにしないが、古くは中村順平氏の横浜工專に於ける建築教育。藤原義一、土居次義氏等、京都工織大に於ける校外合宿教育などは体得教育の良き参考となろう。全ての現代知識や技術はこの体得の上に構築されてこそ生きてくるものであると私は考える。

真水 公雍

1●あなたが参加するデザインサーベイ《白いベンチ》 原宿の表参道にきれいな白いベンチが2台置いてある。まだ新しくきれいなベンチである。いままで道端においてあるベンチといえば、大きく〇〇コーラとか、△△キャラメルなどに入った、原色の、

いかにも馬鹿げたものしか目につかなかったが、このベンチは、パイプフレームのゆるいアールのついた手すりと白い座と背の板の組合せが、シンプルで上品で、原宿のファッショナブルな街の雰囲気とよくマッチしていてとても快い。

こうしたストリートファニチュア的なものは、何の考えも持たない、いかにもイージーなものが多い。国鉄の駅を見ると、吸殻入れ・鏡・ゴミ箱など、ひどいものである。多数の市民と触れ合う場に設置されるものは、もっと考えられたものであるべきであり、官公庁や公共企業体などは、当然、もっとデザインを通じて我々市民にサービスをする事を考えるべきであろう。

ディスカバージャパンなどという、これみよがしな広告をしたり、やたらに特急や急行を走らせて、いたずらに高い料金をとるのがサービスの最も大切なことではなく、もっと楽しく、豊かな環境を身近な世界に創って行くことが必要である。我々デザイナーが、豊かな環境創りをその使命として考えるならば、我々のしなくてはならないことが、まだ沢山あるようだ。

2●インテリア教育について《開きなあったデザイン教育》 学校で出来るデザイン教育とはなんだろうか。教育に与えられた使命の中に、時代先取りということが大きな要素としてある。法律、経済、工学、その他大部分の科がその教育課程の中にこれからの社会を方向づける、時代に先行するものがおかれている筈である。しかし、各種学校でIDの授業を担当している私達の場合はその設備や経済的な能力から見ても、科学技術やシステム造りの先端に行く各企業の開発や研究の更に先に行く教育などとも思えない。今まで自分が経験した失敗の歴史のようなものや、やっと入手した情

アンケート・あなたからの提案



報を学生に伝えるだけで精一杯といったところである。

I Dの新卒者など、とてもそのままでは使いものにならない。入社後再教育するのだという企業側の声も耳にしている。

そこで私達は、科学技術の先端に行く知識的なものは、入社後嫌でも覚えざるを得まい。また、工法、材料など必要に応じて学ぶならば、最的確な情報を最的確な方法で入手するだろう。そこまでは我々の限られた年限の中に組み込むことは中途半端になってしまう。それなら我々は人と話し合うことのできる人間を創ろうと開きなおることにした。

我々の願いは造形力のもった人間を育てることである。

I Dの新卒者が自分で責任を持つ製品を出すまでには数年かかる。その間アシスタントとしてついて行ける表現力と、先輩の考えを受けとめられる理解力、チームの一員としての考え方等が教えることの一方の中心であり、造形力については一品のデザインも、量産も、あとの技術的展開（造り勝手）の違いが若干の形態上の違いをもたらすだけで、人間が使うということから発する《造形》ということでは基本的な異りは全くないと考えている。

つまり、I Dからインダストリアルという部分を外して、残ったデザインという部分が学校で教えられるI D教育ではないかと考えている。

I Dもインテリアも共通であろうが私達も企業でのデザインプロセスのおままごとをやるだけではなく、学校でなければ出来ない、人間を創るデザイン教育の方向を探っている次第である。

松本 政雄

1 ●あなたが参加するデザイナー
ペイ《街で見かけたデザイン》 街路

を主体にして見るとき、そこにはいろいろなものが目に入る。

バス停の標示柱、地下鉄の標識、広告スタンド、アッシュトレイ、煙草の吸い殻入れ、街路灯、ストリート・ファニチュア、花卉鉢、自動車標識、街路名標示、消火栓標示柱、郵便ポスト、電話ボックス等から塵芥容器、マンホールの蓋と数えていけば限りがないほどである。出題の街で見かけたデザインということはどう考えるかには困惑するが、これらのものを改めて眺め感じることは、どれもこれも一応の存在性を主張しているには違いないが、またどれもこれも、てんでんばらばらな存在であることもたしかで、甚だ関連性もないということである。

それだけに街路が無秩序になっているということでもある。都市美ということがいわれるが、この中には建築や街路を走るバスやその他の車などまで包含して考えることになると思われるが、それは二の次ぎとしても、幾多の街路の造形がデザイン的に軽んじられていたのに今更に疑問を深くする。

日常的な生活の中で用いられ、見られる多くのものには、最近デザインの要素が多かれ少かれ導入されている傾向はもうかなり久しいし、ものによってはむしろデザイン過剰になっている。

街路的な関係の多くは公共的な性格が濃いし、だれもが利用する場合に於ても共通したものであることは当然である。それにも関わらず全般的なコーディネートの問題が等閑に附されていたことは不思議な現象である。そのどこかに関連性が逸脱したものがあったことが考えられるが、それは一体何が要因として挙げられるものであろうか。

日本の都市の場合に何か垢抜けていないというような表現がされることが多いが、やはり街路ばかりではなく、都市全体としてのあり方が散漫として

纏まりに欠けていることも、街路的なものの一つ一つがちぐはぐなものであり、都市自体からいえば、それほどのものとも思われないようなことの積み重なりが、結局は都市美に影響することであろう。これらはデザイナーの責務として、また魅力的な都市のためにも、実際の仕事の上で解決していかなければならない緊要な課題である。

5●協会・これからをさぐる 協会のあり方を考えてみると、多くの人々の集団であることを前提として、それぞれの意志の相違があり、それに地域的な不同、あるいは職域の異なることなどで甚だ問題点が多い。その中で多数の会員が何を思い、何を欲しているのかを知りそれに対処していこうとすることは、多くの困難をとまなうことは当然なことではあるが、協会自体の責務としてやっていかなければならない。しかしその総てが直ちに叶えられるわけにはいかないが、これを推進していくためには会員としても多大な協力に努めることも必要なことであって、会にのみ責務を負わせるのみでは決して協会の発展は見られまい。

運営面に於てはとかく当面の問題に絞られがちになるが、協会の将来的なビジョンを設定したり、年間的な目標をたて、積極的に会員の共通の意識に寄与し、また対外的な面も打開していくことは考慮さるべきことではなかろうか。

当面各委員会のような場合に於ても、理事会が各地で折にふれて催されることは、その地域との交流に多く資するものであることにも鑑み年間のスケジュールによって地域との意見の交換を行うことは望ましいものであろう。何れにしても地域的な会員に対してもある種のハンディが比較的少ないように配慮することは必要に思われる。結局、吾々の協会であり、協会に依存することが職能上の成果を期待し

得られる認識を会員それぞれが持ち、また会員は会に対する多くの協力を惜まない自覚が一層協会が発展する基盤をつくるものと思われる。

光藤 俊夫

1●あなたが参加するデザイナーベイ 本当に必要なもののデザインが忘れられている。おしつけがましいものばかりでは息がつまる。

2●インテリア教育について デコレーションについて本格的な講座を開設する勇氣はないか。

デザインという言葉が、幻化してしまわないよう、人間の情念みたいなものの歴史をあらためて勉強したい。

3●インテリアデザイナーの在り方

4●インテリアデザイナーの職能への意見 小さな枠の中にこもらないで、もっとトータルに行動すべきである。

5●協会これからをさぐる 発言の方向がごくうちわだけになっている。もっと人の生活と密着したところで声をあげたい。

森谷 延周

1●あなたが参加するデザイナーベイ デザインを中軸にした今日的な提言という注文であるが、最近は＜デザイン＞という快い言葉とは裏腹に何か空しさ、悲しさ、軽薄さを同時に強く感ずる。日本のデザインを語るには、特に焼野原の昭和20年以後の過程を振り返ってみるとその姿が良くつかめそうだ。軍需産業から平和産業に移行し、新しい産業機械と生活用具が開発された時点では人々の目も輝きがあった。ところが現状はどうだろう。様々の要因による現象を一つ一つ採り上げてゆけばキリが無い上、考え過ぎると気が狂いそうだといっても過言ではない。かと言って黙って目を瞑って無関心でいることを許してはくれない。高度経済成長と公害、そして石油シ

ック、これからは安定成長の時代だという。

資源の無駄使いを慎しみ、物は大切に活用しよう。自然を守り環境破壊を喰い止めよう。いずれも至極当り前のことかも知れない。頭の硬い世の親の反省と共に次の時代をにう子供達、特に幼児期、学令期に人間と道具と環境といったデザインの本質を与えてゆくことが急務であり、これを絵の時間や工作の時間ですり変えてはいけない。このことはデザイナー志望の学校教育以前の問題とも言えよう。これからのデザインとは価値の認識の再考と共にごく身近かなそして純粋なところが再出発点と思える。そしてデザイナーは創造者として時には「勇断」を示さねばならないと思う。そんなことを思索する時、IDの世界・豊口協著「鹿島出版会」は多くの示唆を与えてくれた。是非一読をおすすめします。

5●協会のこれからをさぐる 明日のより良き協会とは何かと問われ筆をとる。改まって当協会の結成はというと昭和33年11月であるから16年以上になる。その間常に問題提起とその解決への努力を重ね、地道な成果をあげながら今日に至っている。そして会員数の増加、事業の拡大に伴い事務局も多忙をきわめている。

ところで「協会」とは何かというきわめて単純な質問をしてみよう。口語辞典には「会員の協力によって維持される会」と書かれている。かりにこの通りだとすると、私も含めて全会員が常に問題提起とその解決への積極的な努力を重ねてゆくことが当然であり、これが根底に無ければ成立し得ないということになるだろう。ということは黙って傍観しては、積極的な意味においてのメリットは生まれてこないということにもなる。本題の明日のより良き協会になるかどうかの別れ道も実はこの辺にあるのかも知れない。それ

では具体的にどう対処してゆけば良いのだろうか。協会の活動は事業・策定・出版・選定・協力という5本の柱より成っている現状で、これに何んらかの形で参加してゆくことだと思う。例えば展覧会への出品、見学・講演会などへの参加、研究成果の発表、会報への投稿、対外的各種啓蒙活動、諸団体諸外国との交流などその参加対象は広範囲といえる。

さてここでもう一つ考えられねばならないこと、それは「通常総会への出席」である。私も時には仕事の都合でやむを得ず欠席することもあるが、その時には後日出席した人に様子を聞くことにしている。それはさておき大変出席者が少ないことである。理事長委任と言ってしまえばそれまでだが、それで良い筈はない。やはり直接出向き論議をかわし、皆で取組んでゆくことが肝要ではなかろうか。総会はステップバイステップの総括の場であるといえよう。そこで論議される決算報告、事業報告、新年度予算計画、新年度事業計画、協会賞の表彰など、いずれもより良き協会づくりのキーポイントといえる。

今年度の事業方針の2本柱の一つである「内部充実」とは私達の協会は私達の手で充実させてゆくということだろう。そして内部の固めが外部に対する実行力となってゆき、ひいては協会の社会的地位に対する確立と前進に厚みが増してゆくことになるだろう。

もう数年すると満20周年を迎える当協会であるが、この辺で協会の存在に対する再認識と共に、新しい力強い歩みを示し続けてゆくこと、それが明日のより良き協会につながってゆくのではないだろうか。

山岸 征史

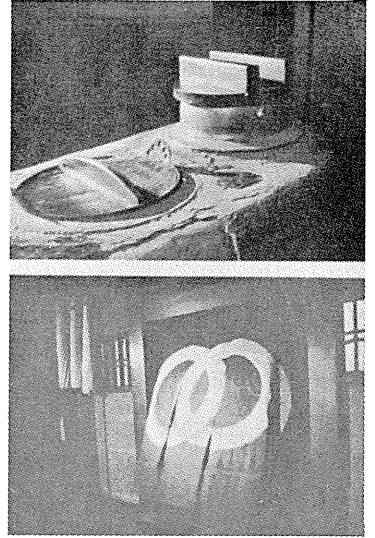
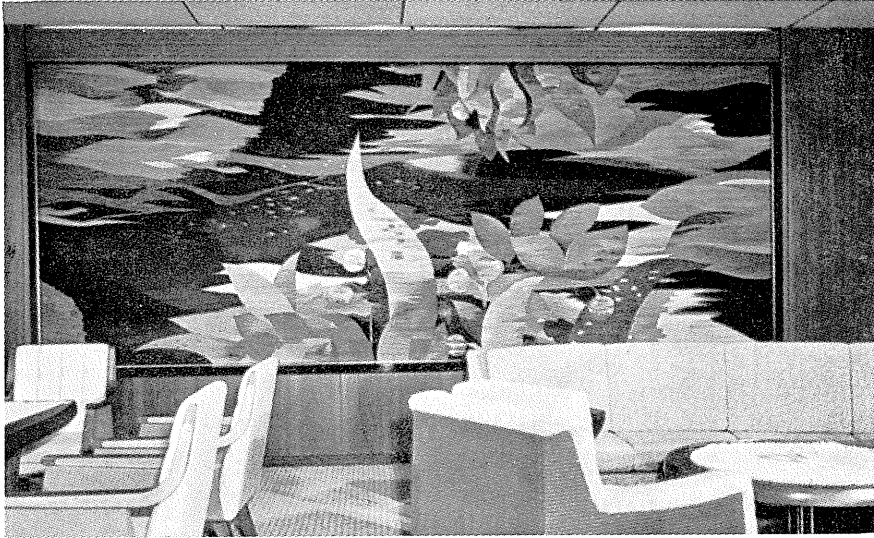
2●インテリア教育について ものの良し悪しを見わけ、良いものが売れ

れば良いものを生みだすデザイナーを育成しよりよい方向に進んでいくことは当然の結果となる。

デザイナー自身を教育することも大切であるが、それ以上に使う立場の人達をもっと教育の方がより効果的である。それには頭の固い大人共に一生懸命、詰めこもうとしても生活に追われてままならぬことであり…毎年消費者セミナーが各地で開られてはいるが時には受講者も少く、その効果については疑問点もある。といってこれは前向きな姿勢であり効果もそれなりにあるだろうが…やはり幼児時代からの教育がもっとも大切ではないだろうか。正面切ったデザイン教育ではなく環境作りがもっとも効果的ではないだろうか。よい環境の中で自然により感覚が生れていくと思う。勿論その教育をする教育者をもっと教育する必要があるだろうか。デザイナーを教育するのではなく、デザイン教育者を育成すべきことがもっと大切であると思う。特にもてはやされるデザイナーはそれだけに個性的であり、特殊な存在である場合も多く、一般的な生活からは、離れていることも多いとも云える。又創造することを教えることではなく、創造されたものの良し悪しを判断するために、ものを造ってその過程でのものの価値を判断出来る様な教育であるべきではないだろうか。



3, 4, 9, 11 の各頁の写真は、1月17日農林年金会館において開催された恒例の新年会のスナップ



協会賞受賞について

岩瀬 要三

先頃第六回通常総会の席上で「特別賞」という荣誉ある受賞に接したが、ただ永年にわたる功績というだけで、このような賞をうけることは、まったく汗顔の至りで、むしろ恐縮をしている。幸い割合と健康にめぐまれたことから、今日までそれらしい仕事を続けられた一つの原動力のように思う。

昔から物を考える中に、其の人自身の健康が大きく左右するという事実を沢山見せられた。こうした仕事上の発想の過程で、物の判断というものにあせらず、こつこつと一つの仕事を掘り下げる根気が大切ではないかと思われる。出来たら、サブとして造園位の余猶がある仕事をしたいと考えている。

この作業は職人を使うというのではなく、自分がほんとうに職人になり切った姿で、石を運び、土を掘って植木をうえるごく単純なものであるが、腕力も勿論必要だが、庭というものは追々とそれらしい姿になるまではかなりの辛抱がなければ出来ない。世はインスタント的な時代で、手間のかゝらぬ

物にとびつくが、私なりにいわせれば世のデザイナーは、アーティザンに徹することではないかと思う。その積み重ねと、其の仕事を整理さすことによって、物が生れ、その中にその人の性格がにじむようなものであってほしい。

消費というものには限度があるが、無駄は物や、資材でなく、考えであって、それはいくら消耗されてもよい。そして出来上った物の寿命というか、そのサークルは少なくとも30年位耐るものであってほしい。

金賞を受けた

映画 Design '73

JETROの海外PR用として製作され、日本のデザインをテーマとして16ミリカラー映画がユーゴスラビア、ベルグラードのニコラテスラ(NIKOLA TESLA)協会主催「第8回国際科学技術フィルム祭」4月9日～12日で世界20ヶ国、210本のフィルムの中より金賞に選定されたことが

日本貿易振興会ベルグラード駐在事務所より4月16日報告があった。

この映画はデザインイヤーのイベントの一つとして映画小委員会(当協会からは三宅、渡辺、榎田)を作り協力して来たもので、撮映製作は日本シネセル(株)で進められたもので、企画にあたりJETROの性格と日本デザインを現時点でとらえる構想で昨48年7月より10月迄の極めて短時間に製作する点で関係者には随分御苦労をかけたものです。

内容は伝統の中より産れた美しいフォルムと現在の生活の中に活かされている日本のデザイン、および物に追いつめられている庶民の生活を見つめるデザイナーは何を解決して行かなければならないかを暗示的に表現したものです。

猶この映画祭にはJETROよりは他に3本出品し、そのうち「小瀬公園」も銅賞を得ています。勿論JETROとして金賞は初めてで関係者も感激しています。

Design '73の日本語版フィルムは浜松町の日本産業デザイン振興会に保存され必要な方には映写機と共に貸出されます。 榎田 均

賛 助 会 員 紹 介

朝日木工 (株) 豊川工場

愛知県豊川市豊川町幾通り15
(05338) 6—4171

(株) コスガ

東京都中央区東日本橋2—15—4
(03) 862—6711

(株) 天童木工東京支店

東京都港区芝浜松町1—19—2
(03) 432—0401

飛驒産業 (株)

岐阜県高山市名田町1—82
(0577) 2—1001

富士ファニチャ関西販売 (株)

大阪市南区塩町通り1—52 森ビル内
(06) 261—4691

ネコス工業 (株)

横浜市戸塚区飯島町久保890—1
(045) 851—5761

古川工業 (株)

大阪市大淀区中津浜通4—5
(06) 371—0849

(株) ホウトク

名古屋市中区錦2—15—22 協銀ビル
(052) 201—4101

フランスベッド (株)

東京都昭島市中神町1148
(0425) 43—3111

(株) オリエンタル中村百貨店

名古屋市中区栄3—5—1
(052) 251—2111

(株) 大丸装工部

大阪市南区鰻谷中ノ町38
(06) 252—0641

国際インテリア (株)

東京都豊島区南池袋1—18—21
(03) 983—9151

(株) モダン・ファニチャー・セールス

東京都千代田区大手町2—2—1 新大手町ビル
(03) 211—8351

日本総業 (株) (エアボン)

東京都港区麻布飯倉片町10
(03) 582—3341

クラレインテリア (株)

東京都港区六本木5—2—1
(03) 403—9721(代)

(株) ホクサン

東京都江東区木場3—15—4
(03) 641—5111

(株) 木利屋

東京都港区新橋3—6—7
(03) 503—1920

三好木工 (株)

東京都文京区湯島4—9—2
(03) 813—5481

愛知 (株)

春日井市如意申町650
(0568) 31—6111

(株) コトブキ

東京都千代田区有楽町1—14
(03) 591—1311

(株) セミカインテリア

東京都新宿区西大久保1—392
(03) 208—0131

チトセ (株)

東大阪市玉串町東2—1—1
(0729) 62—1141

住江織物 (株) 東京支店

東京都港区西新橋3—23—1
(03) 433—4171

トソー (株)

東京都中央区新川1—4—9
(03) 552—1211

長谷虎紡績 (株)

大阪市東区横堀2—10
(06) 203—5921

藤井毛織 (株) 東京事務所

東京都中央区日本橋堀留町2—3
(03) 663—6631

内一商事 (株) 東京営業所

東京都荒川区東日暮里6—36—12
(03) 802—4471

(株) カワキチ

東京都新宿区西大久保2—211
新宿専門店会館 1F～6F
(03) 209—7001

(株) サンゲツ

名古屋市中区小舟町2丁目14
(052) 565—1133

アイカ工業 (株)

愛知県西春日井郡新川町西堀江2288
(0560) 40—5311

東洋ゴム工業 (株)

大阪市西区江戸堀上通2—5
(06) 441—3580・8801

富国 (株)

東京都中央区日本橋小伝馬町2—2
(03) 662—1901

(株) 高島屋

大阪市南区難波新地6—14
(06) 631—1101

(株) 高島屋東京支店設計部

東京都中央区日本橋2—4—1 北別館
(03) 211—4111 内2157

(株) ニック (N I C)

福岡市中央区天神1—11—17 福岡ビル
(092) 721—8151

(株) ハヤミズ家具センター

東京都台東区下谷2—7—2
(03) 876—1111

揖斐川電気工業 (株) 建材事業部

岐阜県大垣市神田町2—1
(0584) 81—3111 内線368

(株) トップトーン

東京都葛飾区東四つ木3—44—15
(03) 692—9097(代)

(株) 佐野紙芸インテリア事業部

京都府亀岡市曾我部町犬飼馬の上1
(07712) 3—0661～4

佐治タイル (株)

名古屋市北区山田西町3—106
(052) 981—9531

東濃陶器 (株)

岐阜県土岐市駄知町1435
(05725) 9—3131

(株) アイ・エム・エス

東京都港区南青山1—11—38
(03) 402—1855

(株) 日建設計

大阪市東区横堀2—38
(06) 203—2361

(株) カファドハウス

東京都港区西麻布2—13—12 早野ビル
(03) 407—2428

(株) 竹中工務店東京支店

東京都千代田区神田錦町1—9
(03) 294—2111

(株) ファースト東京支社

東京都港区赤坂4—1—32 赤坂ビル6F
(03) 585—2046

(株) 商園

東京都渋谷区東1—26—26 富士ビル8F
(03) 407—8171

(株) 小川商店

東京都渋谷区松涛2—18—2
(03) 460—5771～7

(株) 川島織物東京営業所

東京都千代田区永田町2—14—2
山王ランドビル5F
(03) 580—4511

(株) 東光堂書店

東京都中央区日本橋通1—7—6 中内ビル
(03) 272—1966

日本電気装備 (株)
大阪府東大阪市花園西町1-14-11
(0729) 61-6321

松下電工 (株)
大阪府門真市大字門真1048
(06) 908-1131

ヤマギワ電気 (株)
東京都千代田区外神田4-1-1
(03) 253-2111(大代)

ヤマギワ電気 (株) 各古屋支店
名古屋市中区新栄町6-9
(052) 931-2111

共同通信工業 (株)
東京都千代田区内神田2-16-13
(03) 254-1261

(株) 松坂屋
名古屋市中区栄三丁目16-1
(052) 251-1111 内3781

(株) 新宮商行東京支店
東京都中央区日本橋1-3-13
(03) 273-7841

(株) フジエテキスタイル
東京都渋谷区千駄ヶ谷4-7-12
(03) 403-3371

(株) アルフレックス ジャパン
東京都港区北青山3-5-6
(03) 403-5351

中央設備エンジニアリング (株)
名古屋市中村区笹島町1丁目223
(052) 582-8201

日本ビクター (株) デザイン部
横浜市神奈川区守屋町3-12
(045) 441-1291

内外木材工業 (株) 東京支店
埼玉県入間郡大井町亀久保1150
(0492) 61-3611

同社東京支店分室
東京都千代田区内神田1-14-8
長谷川第5ビル
(03) 292-3841~5

(株) 三平興業装飾部
東京都千代田区岩本町1丁目5-13
(03) 862-6161

共同印刷 (株)
東京都文京区小石川4-14-12
(03) 813-1111 (内線439)

(株) ハック
東京都文京区目白台2-9-3
小田急目白台マンション1203
(03) 945-1089・1789

鹿島建設 (株) 建築設計本部
東京都新宿区西新宿2-1-1
新宿三井ビル24F
(03) 344-2111

山田照明 (株)
東京都千代田区外神田3-16-12
(03) 253-5151

(株) 森 伝
東京都港区西新橋3-23-6
(03) 433-4421

(有) ビジュアルプレーン
千葉市千城台西1-13-11
(0472) 37-6608

(株) 武蔵精密
東京都板橋区熊野町43-14
(03) 956-5176

(株) 海 市
東京都中央区宝町1-3
(03) 567-3511

浅野産業 (株)
東京都千代田区鍛冶町1-10-10
(03) 256-8947・251-2587

MAAM INTERIOR
ホーム インテリア
東京都港区西新橋2-7-4 森ビル20
(03) 591-8291・8292

寿屋木工 (株)
名古屋市東区山田東町1-35
(052) 721-0211

昭和エフキャスト (株)
福岡市東区箱崎5-11-93
(092) 651-2931

ロイヤル (株)
名古屋市北区上飯田南町5-20
(052) 981-9521

(株) 西武百貨店家具装飾部
東京都豊島区南池袋1-28
(03) 983-0161 (内線3696)

西和インテリア (株)
埼玉県入間市狭山ヶ原松原108-15
(0429) 34-1101

(株) 北新合板製造所
東京都新宿区新宿2-8-1
新宿セブンビル4F
(03) 352-6201

ユニオン装備工業 (株)
埼玉県大宮市桜木町1-154
(0486) 41-9861

日本板硝子 (株) 東京支社
東京都港区新橋1-8-3 住友銀行新橋ビル
(03) 573-0121 (内線240)

新 加 入

帝人リビングシステム (株)
東京都千代田区霞が関1-4-4
ニューダイヤモンドビル
(03) 506-4874

(株) カスタムインテリアデザイン
東京都品川区西五反田7-22-17
東京御売りセンタービル
(03) 494-3307

■謹賀新年、新年もまたたく間に一月が過ぎてゆく。新しい年に新しい息吹きをと願うか。とくに、本年の新年会も親睦委員の活躍で盛況裡に終る。

いつも、話がはずむ会報委員会、爆弾発言は多く実のある話? は枚挙にいとまない。

はてさて、毎号にわたる委員の努力もさりながら、委員の努力だけではできないのが会報のよわみ。という一

編 集 後 記

とにかく、原稿が足りません。原稿が集まりません、のこないないづくし。

ないのをあるようにするのが、委員一同の苦勞の種といえましょうか。

■オイ、会報を外部依頼にしたらどうかね。そらあ、あかんで。とにかく、

原稿がないのを、どうやって編集するンや。なんぼ、プロといってもそりゃムリだろう。外部依頼のおかねあるんかね。

とも角、来年度はいろいろな面で会報の充実をはかりましょう。外部依頼結構。原稿料結構 etc となることを期待しましょう。

努力もせにやーネ。

(尾上)

機関誌・J I D No. 68 定価 300 円
昭和50年2月発行 印刷 広洋印刷 (株)
発行所 社団法人 日本インテリアデザイナー協会
(〒150) 東京都渋谷区神宮前2-3-16 建築家会館3F
振替・東京・76389番 電話 (03) 403-3649

発行人・白石勝彦 編集 社団法人 日本インテリアデザイナー協会 会報委員会
担当理事 川上信二
委員長 (関東) 尾上孝一 ●三宅征郎・光藤俊夫・山岸征史・長谷川由紀子・諸富顕治
(関西) 本田安治
(中部) 林真正 ●八代美代子・宇賀敏夫・安藤清
(九州) 中川千年 ●香月寿一・堤 久夫

The Japan Interior Designers' Association

JAA-Bldg., 3-16, 2-chome, Jingumae Shibuya-ku, Tokyo, Japan.